

平成 16 年度 第 2 回放射化分析研究会拡大幹事会議事録（案）

開催日時 平成 16 年 10 月 27 日（水） 18:30-20:15

開催場所 東京大学 山上会館（002 会議室）

参加者 海老原、大浦、河野、木川田、笹島、澤幡、榎本、松尾、宮本、八木（順敬称略）

議事内容

1. MTAA-12 に関して

(1) 経過（海老原代表幹事より）

7 月 10 日に開催された本年度第 1 回幹事会での報告以降、新たな展開はない。この先、来年の春頃までに開催に関するプロポーザルを国際放射化分析委員会（ICAA）に提出し、その後、半年から 1 年かけて最終開催地が決められる予定。

(2) MTAA-12 開催と放射化分析研究会の関係

MTAA-12 を放射化分析研究会の 1 行事と位置づけて、今後の本開催を全面的に支援する事を合意した。

(3) 実行委員会の立ち上げ

海老原代表幹事より実行委員会を立ち上げたいとの意思表示があり、了承された。委員会の組織に関しては、今後多方面からの意見を聞きつつ、できるだけ早く組織化したいとの意向が示された。

(4) 実行委員会のあり方

実行委員会のあり方について、様々な意見が出された。あまり形式にとらわれなくて、実質的に身のある会にする方針が了承された。

(5) その他

本年 6 月に英国で開催された MTAA-11 に参加した人の MTAA-11 に対する評価は極めて厳しいものが多く、そうした点を十分考慮した上で MTAA-12 の開催を考えるべきであるとの意見が出された。

2. 会の運営について

(1) 会誌の発行

(i) No. 17 は 11 月末に発行予定。内容が確定し次第、目次を home page 上で公開する。No. 17 と一緒に本年度の会費請求のための振替用紙を送る。

(ii) No. 18 からの会誌の編集は新体制で行う。編集責任者として大浦（都立大）、宮本（原研）の 2 名がこれにあたる。No. 18 を 2005 年 3 月までに発行する。

(iii) No. 18 には特集「放射化分析における QC/QA」（とりまとめ責任者：岡田拡大幹事）が掲載予定。No. 19 以降の特集に関しては、今後広く意見を聞きながら、新編集責任者の責任で決める。近い将来、海外（特に周辺アジア諸国）の放射化分析の実態を紹介する特集を組む事がこれまで議論されてきた。

(2) Home page

ホームページのサイトを現在の原研のサーバーにおく事による顕在的、潜在的問題点が指摘され、独立させる方向で検討する事になった。その結果、本研究会の実態を考えると、学術情報センターのサーバーを利用できる可能性が大きく、今後、笹島幹事を中心に検討する事になった。